



けいせん

2017.4.26

3月後半から花冷えの日が続き、桜の開花が待ちどおしい春休みでした。やっと蕾がほろび始めてら寒の戻り。そのおかげで今年には長く桜をこのしほこができました。満開を過ぎた頃に降り続いた雨の水たまりには花筏。思いがけない春の風景。これもまた好きでした。

園庭の桜は85年という幼稚園の歴史を見続けてきた老木ですが、だからこそ風格があり、伸びている枝にはその下に遊ぶ子どもたちを包み込むようなあたたかさを感じます。毎年2月頃、植木医の方が深く穴を掘り追肥してくださいるので、根から十分な養分を吸い上げて咲く花は、見上げると空が見えないくらいでそれは見事です。

その時々の桜の姿を、心動かされながら見ていると、子どもの成長と重ねて思えてきました。蕾の時期が長く今か今かと咲くのを待つ時、やっと咲き始めたらとまってしまう時、季節が戻ってしまう時、想像もしよりの姿を見せてくれる時...。そう、子どもの成長は行きつ戻りつ、子育ても行きつ戻りつです。それその成長を支えているのは地面の下にある見えない根っこ。幼稚園は根っこを育てる所、幼稚園期は根っこを育てる時です。すぐに見ることのできる成長もうれしいものですが、いつかその子の花が開くのを待ち、どんな雨・風にも折れない強くしほやかなりを育てていくこと、そこに大きな希望があります。どれだけしっかりと根っこをほらせてあげられるか、その時に必要な栄養を与えることができるか...。それが大人の役割ではないでしょうか。即効性のある栄養を与えてくれますが、くり返しお伝えしているように今は根っこを育てる時。安心感、あたたかい雰囲気、人との信頼関係などでの安定。外でたくさん遊びリズムをして体を十分に動かすこと。ひとつの遊びに集中し取りこんで、思考錯誤しよりのやり遂げたり、友達と思いを伝え合い協力しよりの何かに取り組む時間。そんな栄養を十分に吸収して、自分のことを自分でやろうという意欲。苦手なことにも向き合う力。友達と一緒に楽しむこと、そして、"できた!"という喜びを味わうことのできる園生活を子どもたちに送ってほしいと願っています。

人生の土台である根をほり、たくましい幹や枝を伸ばしていく子どもたちは、いつ、どこで、どんな花を咲かせてくれるでしょうか。